

西南学院大学・ 図書館報

新入生特集 大学生と読書

- 堺 太郎・江崎義彦・真下弘子・
山中耕作・古林輝久・中馬正博・
Martha Schweitz……………2~4
図書館利用のススメ 友池洋子・方谷俊弘5
図書館を正しく利用する方法……………6
レファレンス・ブックの紹介(3)……………7
新着図書紹介……………8



アテネ文庫のこと

図書館長 長 洋 一

私が大学に入った頃、書店にアテネ文庫といって弘文堂から出版された文庫本があった。岩波文庫の一番薄い本と同じ大きさで、1冊30円であった。昭和23年から出版されていたが、その発刊の趣旨は次の如くである。

昔、アテネは方一里にみたない小国であった。しかしその中にプラトン、アリストテレスの哲学を生み、フィデアス、プラクシテレスの芸術を、またソフォクレス、ユウリピデスの悲劇を生んで、人類文化永遠の礎石を置いた。明日の日本もまた、たとえ小さく且つ貧しくとも、高き芸術と深き学問とを以て世界に誇る国たらしめねばならぬ。……

昭和20年、日本はアメリカなどの連合国に敗北し、東京は空襲で焼け野ヶ原になっていたし、京都・奈良を除く他の大都市も同じような状態で、ほんとに石器時代ともいわれるような貧しい状態であった。この状態から今日の繁栄を迎えるまでには多くの人々の努力があった。こうして日本人が再建への努力を始めた頃、このアテネ文庫は文化国家への理想を高く掲げて出版を始めたのである。

ところが私とこの文庫との出会いはそんなに高尚なことではなかった。当時、八方ふさがりの壁の中にいた私は、ある時、書店でこの文庫の中の『哲学用語辞典』を手にとってみた。一見うすっぺらな『哲学用語辞典』であったが、ア行から並んだ語句の中に「アポリア」という語があり、「(希)aporia 通路なし、出口なしの意、思惟が窮して解決なき難関を意味す。」と書かれていた。(希)はギリシャ語ということである。

私は驚いた。そこに書かれていることは、八方ふさがりということで、それはそれを読んで私のことであった。自分のことが哲学用語の中にあるなどとは考えてもみなかったが、ギリシャの昔から私と同じような状態があったということに、私は安堵感に似たものを感じた。

考えてみれば昔から有限な存在である人間が、無限なる空間・時間の中に生きているのは変げないのだから、人間のまわりには何らかの壁があるのは当然のことで、多くの人にとっては自明のことであったかもしれない。だが当時、迷える小羊であった私には大きな発見であった。

アテネ文庫は昭和23年から昭和35年まで301冊刊行され、人々に何らかの刺戟を与えたにちがいないが、この出版社は昭和26年から、アテネびじゅつ文庫を出版し始めた。いまま私の手元に、マチス、ユトリロ、ゴッホの3冊がある。1冊90円である。カラー写真が12枚、モノクロ写真が15頁、解説が8頁ついていた。

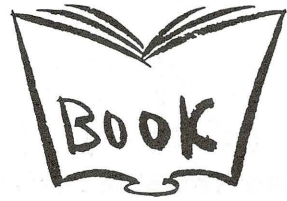
ときどきこれらの本を手にするが、ゴッホやユトリロのカラー写真など現在市販されているものと比べても遜色ない。当時としては最高の技術でこの小さな本を作ったにちがいない。貧しさの中にありながら、それ故にこそ、読者に良いものを見てもらいたいという出版社の心意気を感じる。私のヨーロッパ美術への関心を育てたのはこれらの本であった。

私にとって、アテネ文庫やアテネびじゅつ文庫は「文化の源」から送られてきた貴重なメッセージであった。

(ちょう・よういち：文学部教授)

新入生特集

大学生と読書



課題解決の能力をつけよう

文学部教授 堀 太 郎

私は毎年一番はじめの社会福祉学の授業で、「社会福祉とは何か、どういう事か」、と学生達に尋ねます。すると「困っている人々を助けること」、「貧しい人々が、普通に生活できるようにしてやること」、「老人とか、体に障害がある人達などを援助する事」などと、様々な答が返って来ます。答えはいづれも、社会福祉という事に該当します。

大学に入学して、初めて出会った「社会福祉学」についての学びの第一歩が始まろうとしています。「困っている人々の実体はどうか、何が原因で困っているのか、普通の生活とはどんな生活内容をいうのか、体に障害のある人達というが、外見的な障害を体を持つ人達だけが障害のある人々だろうか。それらの人達を援助する事が社会福祉というならば、どのように援助するか、その手段や援助の質（内容）はどんなものか」等と、学問的興味を深めましょう。

社会福祉の本質は何かをしっかりと把握しましょう。社会福祉に関する多くの図書が出版されています。それらの中から、あなたの興味のある本をいくつか選出して読みましょう。それらの本は先の疑問に答えるでしょう。また新たな課題を、あなたに提供するでしょう。授業での学びを拡大深化させ、実生活と関連させ、社会福祉問題に目を向け、それらの問題に対峙した時、問題解決していく力を、大学時代の読書によって身に付けてほしいと思います。

「知(痴?)的好奇心を…」

文学部教授 江 崎 義 彦

毎年、新学期には色々な先生が熱い思いを込めて執筆された「読書の勧め」という記事をあちこちで見かけます。そして、私は必ず卒業生の多くの人を思い浮かべます。卒業論文、「演習」のレポートその他、それらの内容がいかに貧弱で主体性のないものか。英文が書けない、思想がない。その学生は、この4年間何を勉強してきたのか。その4年間とは一体何だったのか。各先生が授業その他で、必読書、参考文献等を挙げられる、にも拘わらず1冊も読んでいない、これでよく文章が書けたものだ、そのような寂しい思いを抱きます。と同時に諸君には、決してこのようなことがなく、「学問」を中心にして、充実した大学生活を送ってほしい、そう願っています。

卒論、レポート類のための読書だけとは限りません。そもそも、大学は（現在、大学を「レジャー・ランド」と皮肉るやからもいるそうです。諸君はどう感じますか？）学問を通して自らが主体的に繰り返し自己発見、自己啓発、自己認識を行う場所です。足繁く、書店や図書館に赴いて、専門書はもとより、他の分野の様々な書物にも接し、痴的なまでの好奇心を抱いて下さい。それが、大学生活におけるあらゆる意味での出発点だと思います。

読書に未来はあるか？

文学部講師 真 下 弘 子

一時代前の「読書する学生」のイメージといえば、青白い顔に眼鏡をかけ、静かに、そして物憂げな気配を漂わせながら、一心に机に向かう姿であった。この「文学青年」（いまはもう死語になりつつある言葉であるが）のポーズは現実からの逃避を表していた。彼らは現実を背を向け、ひたすら活字を貪り夢をみる。その夢が現実を自己の体内に食い尽くす。読書は現実を脱物質化する手段であった。

それに対して、平成の超「現実的」で物質文明にどっぷりつかった学生たちの読書は、やはり即物的で官能的なもののみに向かうのであろうか。そして漫画という感覚を直接刺戟する表現手段に慣れ親しんだ彼らの眼には、「文学青年」なるものは実に無駄で根暗な前時代の遺物のようにでも映るのであろうか。

しかしこのような時代だからこそ、あらためて「文学青年」が求められているのではないだろうか。かつての現実を否定するために夢をみた青年ではなく、現実を肯定するために夢をみる青年が。彼らは圧倒的な力をもつ現実を囲い込まれることを拒むがゆえに夢をみる。読書はここでも逃避の手段である。しかしそれは、狭小で平板な日常を逃れ、より自由で豊かな現実へと向かうための積極的な逃避である。

卒業論文までのこと

文学部教授 山 中 耕 作

学生の学生らしい夢の一つに卒業論文がある。希望の専攻のゼミに入り、希望のテーマで思う存分書いてみたいという思いは、皆同じはずである。しかし、それにもかかわらず、とかく締め切りぎりぎりに書き上げて提出し、それを一

生の思い出にするのでは、ちょっと寂しい。

やはり、1・2年次である程度の基礎的読書を終えること。また、入学当初から指導教授と仰ぎたい先生の授業にはずっと出席し、研究会にも欠かさず出て、質問し、発表する。3年目からはおよその研究対象を決めて、それ自体を探究することはもちろん、専攻する研究文献を次々読破する必要がある。そうすれば、3年の終わりには、卒業論文の題名ははっきり決まてこよう。構想もおのずから頭に浮かんでこよう。

私の学生時代は、親切な先輩がたくさんいて、よく古本屋街のそぞろ歩きに連れ出してくれた。今になって思うと、計り知れない影響を受けている。今もって感謝している。上級生は、ぜひ新入生を本屋に誘い出して、読書指導してもらいたい。

国際文化学科の新入生諸君に毎年渡す『読書案内』は、先生方が先輩の一人として、皆さんを連れて、本屋巡りをしているつもりで作ってくださったものだ。活用してほしい。

「思想的冒険」への旅立ち

商学部教授 古 林 輝 久

大学とは、その字の通り大いに学ぶ〈学問の府〉といえますが、しかし今日の大学はレジャーセンター化しすぎていると「大学の危機」を訴える向きもあります。さて、皆さんは？

一般的に学問することの代名詞として〈読書〉があげられますように、たとえ大学生の活字離れが云々されましても、やはり学習の基本は「読み書きそろばん」ということでしょう。国際化や情報化の時代でも、その中身が外国語やコンピュータに変わっただけです。ただ大学人には、それを何のために、どの様に学び活用するかが問われてきます。また、そこに〈学問の自由〉が必要にもなるのです。今日の激動する世界情

勢のもとで、そこでの具体的社会生活の在り方を反映してか、思想状況も多様化しています。が、よく考えてみれば、その裏面には共通の問題をもっており、それは「人間とは何か」という古くして新しい問題に対する各自の思想的冒険の試みだといえるように思えます。私が専攻します経営学でも、ヒューマン・ネットワーク経営など改めて人間の重要性がクローズ・アップされています。皆さんも大いに批判的精神をもってこの命題にアタックしつつ、学習に励んで下さい。

「学生時代こそ読書を」

経済学部助教授 中 馬 正 博

私はつい最近まで、地下鉄1時間の通勤を続けていた。読書という言葉で思い出すのは、車内で本を読む会社員の姿である。座っている人の膝元へ周りの人々と一緒に倒れかねないほど混雑する車内で、不十分な明るさ、かなりの騒音にもめげず、新書や文庫本を手離さない多数の会社員には脅威さえ感じた。土日の比較的空いた車内では、私も彼らを真似てみたが、何度も本を床に落として、随分きまり悪い思いをしたものである。もっともこれは、私が隣席の人に押されたせいでも、電車の揺れのせいでもなかった。全く情け無い事だが、私は居眠りしてしまったのである。

読書の最大の難点は、内容理解を目指せば、随分多くの時間と体力を要する点にある。進学したばかりの時期、自分の能力や適性に関する思い込みを捨て、様々な分野の啓蒙書を探すのも面白い。ちょっと鋭い見方を教えてくれる友人のような随筆家を見つけるのも楽しい。運良く相性の良い先生を見つけ、専門書を読むための基礎訓練を自分に課せれば、本当に素晴らしい。学生時代こそ読書に適した時代である。体力の充実した穏やかな時代を、ぜひ意識的に読書に振り向けて頂きたいと思う。

Nurturing a love of reading

法学部助教授 Martha Schweitz

I have been asked to write about college students and reading, based on my own experience. In my view, parents should try to nurture a love of reading in their children from early childhood, first by reading to them and later by helping them choose books interesting to them, whatever the subject. Some children grow up thinking that reading is just something that is a required part of school, that must be done because it is assigned by a teacher. Then they never develop their own interests and lose their curiosity about life, which is so important to growing up. The same is true for college students.

I decided to be a history major in college, mostly because I wanted to read all of the literature and history books which were taught in the history department. We did not have a "text-book", but rather read a great variety of books, about one each week for each course. (Students took about 5 courses each semester.) My favorite classes in college were the small discussion groups, maybe 15 students, which met each week with a graduate teaching assistant to discuss the reading. These were separate from the large lecture sessions taught by the professor of the course.

The library at my university was a second home to many students, who spent six or more hours there each day, studying or doing research for term papers. My most memorable moment at the university library, however, was not reading at all, but the night the university marching band marched in, encircled the balconies, and began playing the school song on the eve of a football game against our arch rival.

アルバイトを通じて

友 池 洋 子

試験前やレポート作成の時くらいしか図書館を利用していなかった私ですが、卒業を間近にひかえた12月と1月に図書館でアルバイトをして初めて“もっと図書館を利用していればよかった”と後悔しました。

アルバイトでは主に新しく入ってきた本の装備（背表紙のラベルを貼ったりはんこを押したりする仕事）や古くなった本の修理などをしましたが、新しい本が毎日のように次々入ってくる事にとっても驚きました。また図書館の本といえば難しく堅い本ばかりと思いがちですが、意外とユニークなものが多く、“こんな本が学校の図書館に？”と思うような過激な(?)本や思わず吹きだしてしまう内容の本がけっこうあって、仕事のあい間にそれを読むのが楽しみでした。本によっては開架に置かず始めから閉架に収められるものもあるので、本を探す時は端末などをおおいに利用してほしいと思います。(新しい本は目録カードでなく機械に入力されているので)

こんな風に1日中たくさん本の囲まれて過ごしていると、この中で自分が在学中に読んだ本はどれくらいだろうと考えてしまい、そのあまりの少なさに自分でもはずかしくなっています。だから新入生のみなさんは私のように後悔なくいいようにおおいに図書館を利用してほしいと思います。難しい本を読んでやるなんて気構えず、まずは暇つぶしをするくらいの軽い気持ちで足を運んでみて下さい。暇な時は図書館に行く……という習慣がつけばこっちのものです。きっと必ず得るものがあると信じています。

(平成3年 文学部卒業)

人間創造発展の場—図書館

方 谷 俊 弘

入学したての頃は、誰しも期待に胸を膨ませているものです。ところが、しばらくすると「大学に失望した」というような声が、周囲から聞こえ始めます。あなたもその声に同調するかも知れません。が、ちょっと待って下さい。あなたは何を期待しているのですか。誰かが何かを

与えてくれるとでも思っているはいませんか。大学では、自主的に行うということこそが大切なのであって、例えば講義などは、自主的に学問をするためのきっかけに過ぎないのです。まず、このことを銘記しておいて下さい。

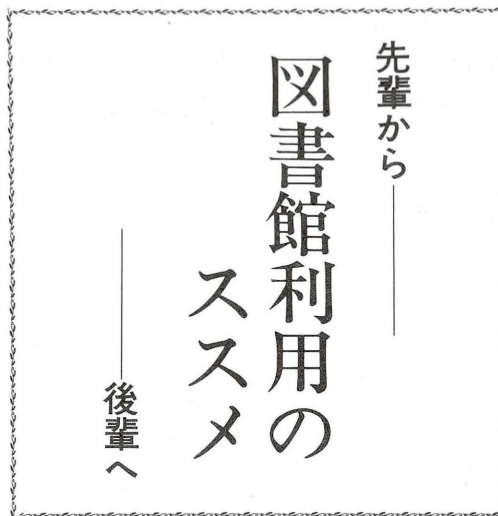
次に、これから皆さんには様々な人との出会いがあります。何かが違う人、人間の奥行きを深さを感じさせる人、そういう人との出会いもきっと

あるはずです。彼らに共通していることは何かというと、実は、静寂の時を持っているということなのです。読書、思索など心静かな時が、彼らの中の「何か」を育てているのです。

では、このような「自主的に学問する」場、「静寂の時」を持つ場、をどこに求めるのかといえば、図書館が最適でしょう。幸に、大学では時間割の都合上、空き時間が生じてしまいます。たまには図書館で過ごすのもどうでしょう。好奇心のままに本を選ぶのもよし、また、専門分野に関してどんな書物があるのか、書名著者名だけを端から目で追うだけでも結構です。これが後々大いに役立ちます。

ともあれ、人は、静寂なる時における自己との出会いによってこそ、自分を創り発展させることができるのです。

(平成3年 法学部卒業)



図書館を正しく利用する方法

本学図書館の蔵書数は約55万冊。そのうち開架閲覧室においている図書は15万冊です。これらの図書は、皆さんが自由に取り出して閲覧できる図書です。大学の図書館は、読書を主体とした学校図書館とは異なり、研究や調査を目的としていますから、それぞれの学問分野ごとに、膨大な関連図書を準備し、利用者の研究に供しています。

新たに大学生となった皆さんに、本学図書館の利用の方法と、基本的なルールを説明しておきます。詳しくはガイドブックをご覧ください。か図書館カウンターの係員におたずねください。

全館を利用できる

各階は概ね学部ごとに図書を置いていますが、専攻科目や関連科目の勉強のためには、すべてのフロアの利用が不可欠です。

午後9時まで利用できる

授業や課外活動などで昼間勉強できなかった人、夜に落ち着いて勉強したい人は夜9時までみっちり勉強していただけます。

かばん、コートはロッカーに

図書の管理上、2階以上の開架閲覧室に入るときは、かばんやコートは必ず1階のロッカーにいらしてください。これらを着用のままの入室はできません。

ロッカーの利用は当日限り

ロッカーは図書館利用者のために設置しているものです。小荷物預かりの感覚で、キーを携帯したまま帰宅することは厳禁します。

図書を借りるには利用カード必携

図書を借り出すためには、入学式後に配布した図書利用カードが必要です。紛失した場合は、再発行の手続きを取ってください。

図書の検索は端末かカードで

読みたい本は自分で探すのが基本的なルールです。検索のためには、コンピュータ端末か目録カードを利用してください。端末の操作は、マニュアルを見るか、係員におたずねください。

コピーは図書館蔵書のみ

閲覧カウンターの前に複写機を設置しています。図書館の複写機は図書館の蔵書をコピーするためのもので、文献複写申し込みを受け付けたもののみを許可します。それ以外のコピーは著作権法に抵触する恐れがありますから、厳禁します。

閉架図書を利用するには

端末やカードで検索した図書が、閉架書庫に置いてあるときは、カウンターで利用の手続きを受けてください。

他大学の図書館を利用するには

図書館間相互利用により、皆さんは他の大学図書館を利用することができます。本学図書館長の発行する利用願いを持参してください。

その他

その他、図書返却延滞、又貸し、紛失・破損などに関する罰則、図書雑誌以外の資料・AV機器の利用などについては、係員におたずねください。

シリーズ

レファレンス・ブックの紹介(3)

今回は、日本・東洋・世界の時と歴史に関する資料を紹介いたします。なお、ここに掲げたもののほかにいろんな参考資料がありますので、お気軽におたずねください。

Q. テレビ時代劇「長七郎江戸日記」の主人公・松平長七郎について調べたい。

A. 日本歴史大辞典(河出書房新社)

(増補改訂版) (請求記号210/033/20-)

日本歴史大辞典は全10巻、別巻2巻よりなり、別巻は「日本歴史年表」「日本歴史地図」となっています。

内容については、日本歴史の辞典であると同時に日本歴史に関連ある各種専門辞典の内容を兼ねそなえる意図のもとに編纂され、日本の政治・経済・社会・文学・美術・宗教等あらゆる分野にわたる事項・事件・人名・作品等を見出しとする小項目を五十音順に配列し、比較的簡潔に解説しています。

なお、第10巻は「補遺・索引」とし、五十音配列の、地名・書誌名・一般項目の各索引があります。

Q. 日本史に興味があって、今調べているのは一揆についてなのだが、何か年表の形で詳しくのっているものはないか。また、日本史の年表でいろいろなことがのっている何かいいものはないか。

A. 日本史の総合年表では、なかなか各分野の細かいところまでのっていませんので、「日本史の年表に加え、議会史の年表や貿易史の年表など各分野ごとに年表をそろえなければならない。一揆について調べるのに日本史年表のなかから一揆の項目だけをひろわなければならない。これは困った。」そう悩んでいるあなた。とても便利なものがあるのです。それは

「日本史分類年表」(東京書籍)

(請求記号210/032/10)

です。この本の中では日本史上のいろいろな出来事を分類別に分けて年表にしてあります。例えば、あなたが調べている一揆については一揆年表というもののがのっています。また、他にも

合戦年表や国際関係年表、ちょっとおもしろいところでは、妖怪・怪奇年表なんていうものものっています。日本史の研究のためはもちろん、また雑学的にも一種の物知りになれる、そんな役に立つ一冊です。一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

Q. アヘン戦争敗戦後、中国はどの国とどのような条約を締結したか調べたい。

A. 用いるツールはいろいろありますが、ここでは代表的な資料を紹介します。

「新編 東洋史辞典」(東京創元社)

(請求記号220/033/3-2)

この資料は西アジア・東南アジア・中国などの変容をふまえ、昭和36年の初版に増補改訂したものです。原則として紀元前から昭和53年(1978)までの事項6000項目を小項目で解説した辞典です。人名・地名事典なども収録し、50音順配列で巻末にはアジア各国の統治表・年号表など8種類の付録が付いています。

Q. 近代初頭にヨーロッパでおこったといわれる宗教改革はどの国でおこったのか。またそれぞれの国の改革者について知りたい。

A. 歴史関係の情報は百科事典などでも得られますが、とくに西洋史に関する事項を調べるときに手軽に利用できるのが

「新編 西洋史辞典」(東京創元社)

(請求記号230/033/1-2)

です。

西欧、アメリカ合衆国、ソ連を中心に比較的マイナーな東欧、イベリア半島の歴史をも含む約5000項目が収録されており、解説は簡潔にして内容豊かです。

付録に人名対照表、各国首長表、家系図、歴史地図、主題別年表があり、こちらのほうもいろいろ活用できそうです。

新着図書紹介(一部)

(平成3年3月31日現在)

- ・ソフトウェアの品質保証
BISO/DIS9000-3対訳と解説
(飯塚悦功) 007.63.135
- ・バックアップツール自作初歩講座
(大竹政広) 007.64.215
- ・人間の現在 ポストモダニスト試論
(石井誠士) 104.0.42
- ・東欧・激動の底流はここに 下
(喜多迅鷹) 293.09.50-2
- ・中国・未来への選択 かくも多き難題の山
(何博伝) 302.22.120
- ・移情閑遺聞 孫文と呉錦堂(中村哲夫) 312.822.119
- ・憲法概論 (樋口陽一) 323.01.9
- ・裁判が誤ったとき 請求者の側からみた再審
(竹沢哲夫) 327.65.3
- ・人口の高齢化と貯蓄・資産選択
(貯蓄経済研究センター) 331.87.4
- ・中国ビジネス法大系 全3冊
(中国法学会・漢門東亜大) 333.09.11-1~3
- ・実践経営学研究 (名東孝二ほか) 335.1.19
- ・パーセプション・ギャップ
日米欧トップ経営者736人の“心情”
(片方善治、日本経営協会) 335.13.7

- ・デュアレーション分析
確定所得証券ポートフォリオの利回り保全
戦略の基礎理論と応用
(J.O.ビルワグ) 338.15.30
- ・外国為替読本 (東京銀行調査部) 338.95.7
- ・ソ連社会保障の研究 (柴田嘉彦) 364.0238.1
- ・トレンド予報
消費・生活・文化のキーワード
(博報堂未来予報研究会) 365.0.91
- ・若者とメディア (香取淳子) 367.6.17
- ・歴史の授業 108時間 上・下
(安井俊夫) 375.323.1-1~2
- ・日本の大学 (桂文珍) 377.9.84
- ・子供の気持ちがわかる本
いまの子供たちの本音を解説する
(斎藤茂太) 379.9.205
- ・テラスで読む地球環境読本
(日本経済新聞社) 519.0.23
- ・P C帝国を追撃する東芝のダイナブック戦略
(三輪新吾) 548.2.22
- ・最新流通情報ネットワークの実際
(流通システム開発センター) 675.4.12
- ・私の生ひ立ち (与謝野晶子) 911.162.53
- ・レンドラ アジアの現代文芸
インドネシア② (Rendra) 929.421.1

編 告

《図書館委員会》

◎2・27

- ①平成3年度予算の申請とその結果について
- ②図書館増改築計画の進捗状況について
- ③平成3年度私立大学研究設備等補助金の申請準備並びに高額図書購入申し込み準備について

《人 事》

平成3年3月31日付

退職 齋藤裕美(整理課)

梅津健吉(情報サービス課)

平成3年4月1日付

任用 渋谷 勇(情報サービス課)

図書利用カード配布米

図書館所蔵の図書を借りるためには、図書利用カードが必要です。新1年生には、入学式後配布いたしましたが、1、2年次生以上でまだ受け取っていない人は、図書館閲覧カウンターで受け取ってください。

図書利用カードは在学期間中利用しますので、紛失したり、破損した場合は、再発行の手続きをとってください。

圖書後記

「煩悶せざる青年は人生初期において足らざる所あり」(長谷川如是閑)

哲学は懐疑より始まるといわれる。学問に、人生に、懐疑を抱き、哲学的思考で大人への脱皮をはかってほしい。(J)